

伊勢本街道と伊勢街道(お越道)の
分岐点・札の辻にある旧旅籠

宇陀市歴史文化館

旧旅籠「あぶらや」

(宇陀市指定文化財)



所在地：奈良県宇陀市榛原萩原元萩原2672-1

入館料：無料

開館時間：午前10時から午後4時

休館日：毎週月・火曜日・12月15日～1月15日

交通：近鉄榛原駅下車 徒歩約5分

TEL&FAX：0745-88-9418

■問い合わせ先

〒633-0292 奈良県宇陀市榛原下井足17-3

宇陀市教育委員会 文化財課 ☎0745-82-3976

旧旅籠「あぶらや」主屋 (平成21年6月26日指定)

旧旅籠「あぶらや」は、宇陀市榛原萩原にあり、伊勢本街道と伊勢街道(あお越道)の分岐点・札の辻に位置します。古くから交通の要衝として栄えてきた街場、萩原宿の中心にあり、明治時代末頃まで、旅籠を営んでいました。その前身は、屋号の「あぶらや」からも判るように油業を営んでいました。安永2年(1773)の株仲間には入っていないので、この時には、すでに油業を廃業していたようです。

明和9年(1772)に本居宣長が大和を旅した時に萩原宿に宿泊したことが『菅笠日記』に記されています。萩原宿のどの旅籠に宿泊したのかは明らかではありませんが、萩原宿の中心、札の辻にある「あぶらや」なのかも知れません。

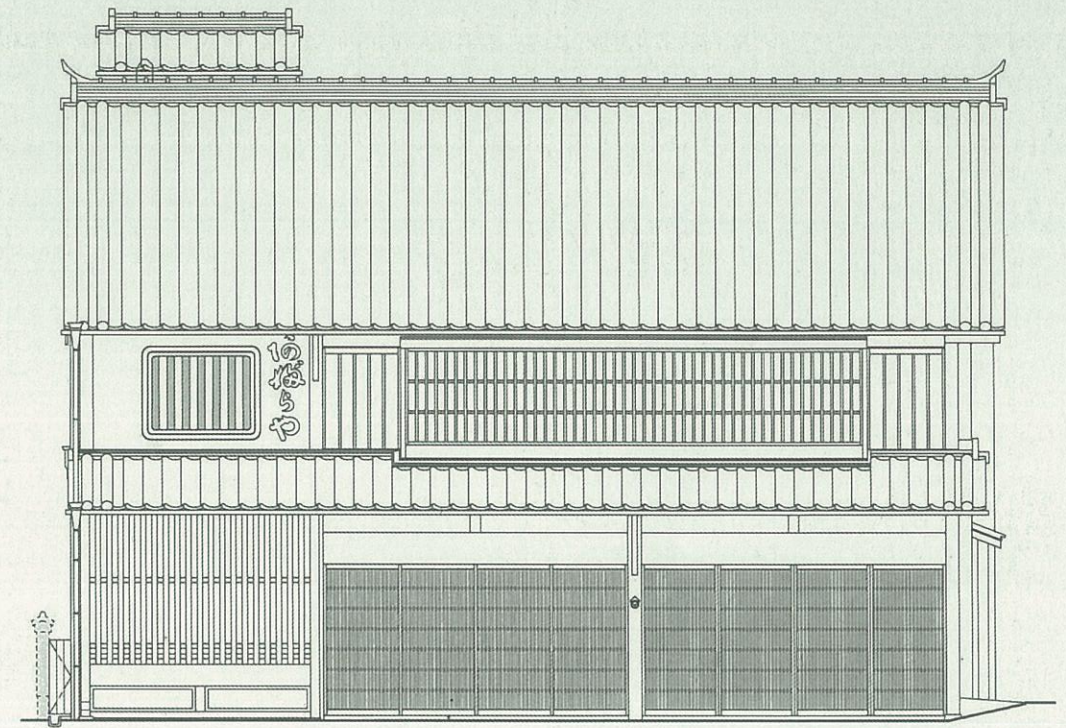
かつては、主屋の西北部から接続して2階建の客室もあり、主屋より渡り廊下で結ばれていました。また、旧旅籠「あぶらや」古図では、主屋南側が家族の住む住宅となっていたことがわかり、台所部分を通じて行き来していたと考えられます。

主屋は、木造2階建庇付きの切妻造で、正面と袖卯建には、屋号の「あぶらや(阿婦らや)」という文字が漆喰で表されています。現在、正面開口部には目板格子、その奥に木製硝子戸を建てこみ、南側には台格子をつけていますが、これは後世の改変によるものです。柱に残る痕跡から当初は、スリアゲ戸が入っていたと考えられます。台格子は、明治期の改修の際に新設したといわれています。また、現在の玄関北側(右側)の「ミセオク」、「ミセノマ」は、当初、東半分(道路側)が土間となっていました。2階への昇降は、主屋裏側(西側)の階段で行っていますが、「チャノマ」北側天井に板戸が認められることから、当初は、ここから2階(板間)へと上がる階段があったようです。建物の一部に改修の痕跡が認められますが、江戸時代後期～末の建築と考えられます。

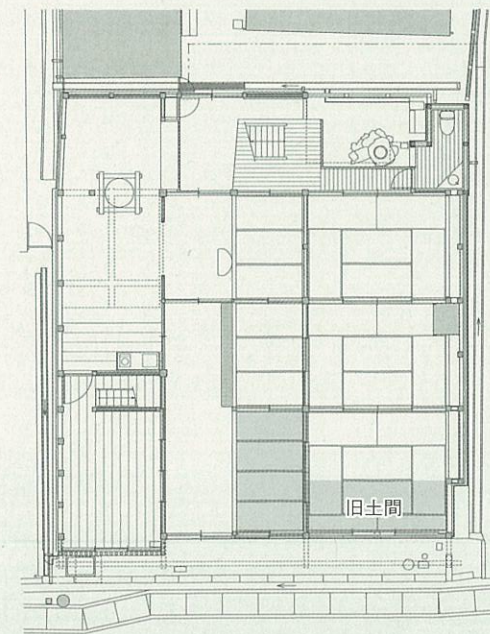
宇陀市内には、江戸時代から続く旅籠の建物は、数が少なく、旧旅籠「あぶらや」は、伊勢参詣が隆盛を極めた頃の面影を今に伝える数少ない遺構として貴重なものです。



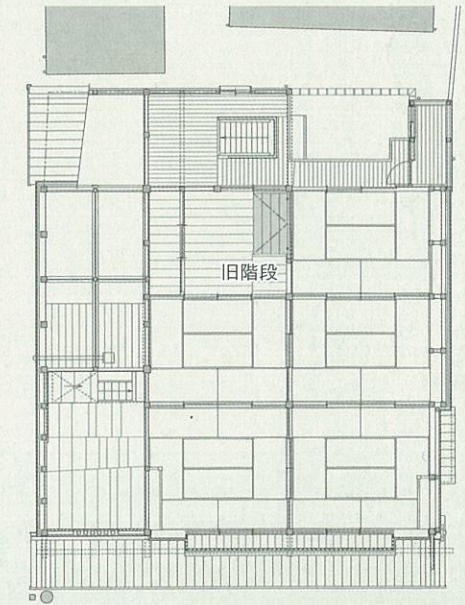
札の辻には、文政11年(1828)銘の道標や燈籠が残っています。



正面



1F平面図



2F平面図

建築概要

- 所在地/奈良県宇陀市榛原萩原2672-1 ●年代/江戸時代後期～末 ●建築面積/137.37㎡ ●主屋/木造2階建、棧瓦葺、庇付き切妻造。明治時代末頃まで旅籠を営む。正面・1階の一部に改修が認められるが、伊勢参詣が隆盛を極めた頃の面影を今に伝える。
- 文化財指定/宇陀市指定文化財(平成21年6月26日指定)